



青き楓

島高だより
平成 20 年度 12 月号

(通巻第 33 号)
長崎県立島原高等学校
編集：情報図書部

校長室から

「強まる人材不足感、日本の将来は・・・？」



校長 辰田幸敏

民間の調査によると、企業が必要とする職種への人材不足感が明らかになった。日本の企業の将来に対する人材不足感は63%で、前年調査と比較すると2ポイント増えている。これは世界(32の国・地域)でルーマニアに次いで2番目に強く、アジアでトップだという。

人材不足職種のトップ10は、①営業・販売職 ②事務、秘書 ③技術者 ④IT関連技術者 ⑤生産オペレーター ⑥エンジニア ⑦高スキルの職人 ⑧マーケティング・広報 ⑨機械工 ⑩研究者の順で、営業・販売、大工・配管工・溶接工等の熟練工など長年の経験と実績が求められる職種が多い。

この背景にあるのは、団塊世代の大量退職や自立できない若者の増加などが考えられると解説している。

もしかしたら、このデータは島高生にとって進路選択のヒントになるかもしれない。1・2年生は自己実現のため進路選択や志望学部・学科選択等について、冬休み中に家族でじっくり話し合ってほしい。

3年生はいよいよ正念場、自分で「限界」をつくることなく、「プラス思考」で頑張り！



ボランティア活動紹介

サッカー部 高見彰平

11月23日(日)、僕は市内在住の島高サッカー部(1年)8人で平成町多目的広場で開催された島原市小学生サッカー新人大会の手伝いに行きました。

ラインズマン(副審)をしながら、小学生の一生懸命さを感じるとともに、自分の小学校の頃を懐かしく思い出しました。

また、小学校の指導者の先生方に久しぶりに会ったにもかかわらず、親しく声をかけてもらい、とても嬉しかったです。

市民の声



どうぞ

先日、バスで男子生徒が席を譲ってくれたというお礼の電話を小さなお子様がいらっしゃる市民の方からいただきました。



1月の主な行事予定

- 3日(土)～4日(日) 3年プレテスト
- 5日(月)～7日(水) 冬季補習
(1・2年は7日のみ)
- 8日(木) 始業式 校内実力(1・2年)
- 9日(金) 校内実力(1・2年)
- 10日(土) 土曜講座(1・2年)
- 10日(土)～11日(日) 3年プレテスト
- 17日(土) 土曜講座(1・2年)
- 17日(土)～18日(日) 大学入試センター試験
- 20日(火) 特別編成授業開始(3年)
- 24日(土) 進研記述模試(1・2年)
- 25日(日) 進研記述模試(2年)
- 28日(水) 第1回まゆやまロード健脚大会
(30日予備日)
- 31日(土) 土曜講座(3年)



第2回「島高青楓塾」読編

講師 石黒秀子先生からのお手紙(一部、抜粋)



秋も深まって参りました。

この度の講演では大変お世話になり誠にありがとうございました。ステージのセットもスライドも何もかも設備は完璧。立派な体育館で校長先生はじめ諸先生方に支えられて無事に終わられましたこと深く感謝致しております。

一部、省略

お陰様ですっかり母校に里心がついてしまいました。在校生の表情は、都内の高校生には見られない素朴さと潜在能力を秘めているようで、そのような生徒さん達と時間を共有できましたこと本当に幸せでした。一番の心配は、ちゃんと聞いていただけただけでしたが何のその。お行儀はいいし、好奇心は豊か、素朴なお育ちのお顔ばかり。

ステージも勇気ある生徒さん10人が自然体で参加して下さり、客席の応援部隊との一体感がアットホームで、島高には、明るい未来があると確信致しました。

今回、聴講して下さった生徒さんで上京されたり会合などでお目にかかりましたら、是非、お声をかけて下さいますようお願い申し上げます。

向寒の折から、島原高校の皆様どうぞご自愛の程、お祈り申し上げます。

11月22日

【生徒の感想】

○島原高校の校歌には宮崎康平先生から島高生へのメッセージがたくさん入っていることを初めて知りました。私は、島高に入学して校歌のことについて何も考えてなく、歌うときもただ何となく歌っていました。しかし、今日の講演を聞いて、島高の校歌は素晴らしいんだなあと感じました。(1年女子)

○今日の石黒先生の講演を聴いて、今の高校生活は、薔薇色かと質問みたいなことがあって自分はどうなんだろう?と考えると、真っ先に灰色だなと思った。それは、勉強は大変で寝る時間もそんなにないのに、バラ色とは言えないだろうと考えたからだ。けれど、もっと考えてみると、楽しいこともたくさんあって、どちらか迷った。バラ色にも色々あるけど、広辞苑では、淡いピンクと書いてあると知って驚いた。これまで、ずっと濃い赤と思っていたから、とても予想外だった。(2年男子)

○私は、ステージで薔薇を切るという貴重な体験ができました。石黒先生は、知識も大変、豊かで優しくご指導してくださいました。私も、先生のような人生で熱中できるものを見つけられたらと思います。薔薇が好きになりました。頂いた薔薇は、大切に教室で育てます。(3年男子)



<先輩のすばらしい業績>

第62回毎日出版文化賞受賞

島原高校第22回生 植木 雅俊氏(仏教研究家)
梵漢和対照・現代語訳 法華経 上・下(岩波書店)

本賞は、第二次世界大戦の終戦後間もない1947年、出版文化の向上を願い創設された。出版点数が拡大する中で、毎年、優れた出版物を選び顕彰している。

選考は、文学・芸術、人文・社会、自然科学、企画(全集、講座、辞典、事典など)の4部門で行われ、企画部門での受賞。今回の訳業は、信仰をもつ人びとにとってはもちろん、一般読者にも大いに有益とされている。(平成20年11月3日(月)毎日新聞より)

修学旅行

～歴史・文化・自然に感動／充実した大学・企業訪問～ 第2学年主任 吉田英雄



金閣寺

【生徒の感想】

「あっ」と言う間の五日間でした。一日一日がとても遠い日のように感じます。とても充実していました。「外」に出たなと思いました。見上げるような高いビル、見渡す限り人ひと、ヒト、電車の路線の多さ、すべてが新鮮でした。テレビの中に入っているみたいでした。この五日間は本当に夢のようでした。よく教科書などで「交通機関が発達して時間的な距離が短くなった」と書いてあるけれど、そのことを身を持って実感できました。東京に居たのに、もう家に居るなんて。

今回の修学旅行で一番印象に残ったのは東京でした。何もかも珍しかったです。新幹線もものすごく速かったし、駅で切符を買うときはすごく緊張したし、街を歩くのもキョロキョロしていました。すごくいい体験になりました。大学は東京とは限定しないけれど、都会に行ってみたいと思いました。そして、いろいろな人と話してみたいと思います。東京で、自分はともらつぽけな存在なんだということを実感したし、もっと思い切って大きなことをやろう、今を楽しもうという気になりました。自分を見つめ直すよききっかけになったと思います。また、この五日間ずっとクラスのみんなと生活して、いろんな話を聞けたし、みんなのおもしろいことを発見することができました。より近くに感じられるようになりました。本当にこのクラスでよかったです。素晴らしい友人に囲まれて幸せだと思いました。私もこれから積極的になれるといいと思います。

それに、家族の大切さも実感できました。家に帰ってどんなに嬉しかったことか。今回の旅行で勉強よりも大切なことをたくさん学べたと思います。もちろんこれからは勉強も頑張ります。



奈良の大仏



奈良公園



赤門



皇居



食事



ディズニーランド



企業訪問



お台場のフジテレビ

期間中、素晴らしい好天に恵まれ、予定通りの研修ができました。

奈良・京都では歴史的な建造物に圧倒され、空の青さと対称的な美しい紅葉に魅了される等、感動の連続でした。東京での事業所研修では将来の進路選択に向けた学習ができ、都内研修&東京ディズニーランドを大いに満喫できました。日頃、目にする事のない生徒の一面を垣間見ることができた良い機会でした。今回の研修を機にますますの成長を続ける学年でありたいと切に願っています。またそうなるように指導を継続したいと思っています。

最終日は、天候不良のためとはいえ、大幅に帰宅時間が遅れ、ご心配、ご迷惑をお掛けしました。計画の甘さを反省しております。申し訳ありませんでした。

歳末助け合い募金運動

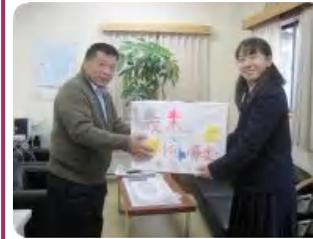
生徒会指導部

【生徒の感想】

〇私達は、生徒会活動の中で、12月11・12日に街頭で「歳末助け合い募金運動」を行いました。初めの方は、恥ずかしくてなかなか声を出せませんでした。しかし、3年生のボランティアの方々の協力もあり、良い活動ができたと思います。今回の募金活動で、心の暖かさ、善意を深く感じることができました。このような活動を今後とも続けていきたいと思います。(1年男子)



募金運動の様子



長崎新聞社島原支局にて

〇私は、募金活動への参加が初めてで、街の人に自分の声が届く心配でした。でも、まずは『あいさつ』から始めようと思い、大きな声で募金運動を行いました。すると、立ち止まり笑顔で募金をしてくれました。また、その中には、差し入れをしてくれた人もあり、人の暖かさを感じました。これから人と触れ合う機会が多くなるので、この体験で感じたことを日常生活に活かしていきたいと思いました。(3年女子)

校内募金	103,566
街頭募金	113,524
計	¥217,090

ご協力ありがとうございました



島原地区高等学校PTA連合会秋季研修会

PTA副会長 野口優子

去る11月26日、島原半島の高校が一堂に会して行われたPTA研修会は、各校代表によって話し合う各種委員会を経て『親として、大人として、子どもとどう向き合えばいいのか』の大会テーマのもと熱心な協議(全体会)が繰り広げられた。

一島原(半島)の子どもは島原(半島)で育てる一と掲げられた研究協議主題にふさわしく、島原を代表する作家故・宮崎康平氏の妻、和子氏による講演は「まぼろしの邪馬台国」が映画化されるまでのエピソードや、夫、康平氏と歩んだ家族の絆などを、ときには笑いを交えながら話された。プラス思考がそうさせるのか生き生きとしてとても若々しかった。全体会の後、情報交換会よろしく各校PTA会員の親睦を深めようと会費制の懇談会場へと場所を移し、大いに互いの親睦を深めた。その中でも大野PTA会長(島P連会長)が今年度で退会と知り、N高校PTA有志らが準備してくれたソーラン節は大野会長を感激させるだけではなく、島原地区高P連の団結と力強さを感じさせてくれた。

せっかくのPTA会員です。何事にも参加してみられることをお勧めします。



冬季業中の生活について

生徒指導部

まず、この2学期に家庭や学校でより良い人間関係が築け、充実した高校生活を送ることができたか振り返ってみよう。その上で、各自がこの冬季休業中に取り組むことを見つけ日々の生活に甘さや乱れの生じることがないように、下記の点に留意して生活しよう。

- (1) 充実した生活を送ろう。
将来の夢や進路を見すえ、その実現に向けて最後までやり抜く。
- (2) 良心に恥じない行動・態度を心がける。
島高生として、品位や礼節を重んじ、地域社会に進んで貢献できる行動をとる。
- (3) 携帯電話に使われるな、遊ばれるな。

本校の携帯電話所有率は85%!全員は持っていない。だからこそ、時間や仲間を携帯電話やメールで失うな。携帯電話との付き合いは他者に迷惑をかけていないか、自分の勉強部屋には持ち込まないなどルールを作り、自ら律することが大事である。

